

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

10月号 発行 平成24年10月31日



東日本大震災関連



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の9月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した11品目53検体のうち、8品目49検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、3品目(日本なし、菌床しいたけ(施設)、とちのみ)の4検体、基準値を超えたものは、ありませんでした。品目としては、野菜類や穀類、畜産物や原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。10月12日に出荷制限があったくりを含め、10月15日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、ご確認ください。また、この調査結果は、地産地消推進店、地域産業6次化ネットワーク会員、グリーンツーリズム関係者などにお知らせしています。

また、9月22日(土)からいわき市の平成24年産米の全袋検査が始まりました。米の全袋検査の結果については、「ふくしまの恵み」ホームページで閲覧できます。

(表1) 農林畜産物の調査結果(9月)

| 放射性物質が検出されなかった品目と検体数 | 放射性物質が検出された品目と検体数 | | 計 |
|----------------------|-------------------|----------------|--------------|
| | 基準値内で検出された品目と検体数 | 基準値を超過した品目と検体数 | |
| 8品目 49検体 | 3品目 4検体 | 0 | 11品目 53検体 |

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目と検体数

| | | | |
|----------|---|-------------|---|
| ・ サヤインゲン | 1 | ・ 赤シソ | 1 |
| ・ ショウガ | 1 | ・ 菌床なめこ(施設) | 2 |
| ・ トウガン | 1 | ・ 牛肉 | 3 |
| ・ サツマイモ | 5 | ・ 原乳 | 4 |



「食彩ふくしま地産地消推進店」意見交換会を開催しました

9月25日(火)、県いわき合同庁舎において「食彩ふくしま地産地消推進店」()意見交換会を開催しました。

これは、推進店の日ごろの地産地消への取組等について情報提供していただくとともに、いわき地方における地産地消の推進を図ることを目的として開催されたものです。はじめに、いわき農林事務所から、東日本大震災後の県の地産地消に関する取組として、県全体の取組(風評被害対策)といわき農林事務所独自の取組について説明しました。

引き続き行われた意見交換会では、飲食店として県内外のお客さんと接している立場から、県の取組や今後の地産地消のあり方について前向きな意見が出され、改めて放射性物質のモニタリングを確実に実施し情報を発信することの必要性を再認識しました。

県では、推進店を支援するとともに、推進店と協力して地産地消を推進し、食産業を通じた地域の活性化や、農林水産業の振興を図ることにしています。

食彩ふくしま地産地消推進店

県が進める地産地消の趣旨に賛同し、地元をはじめ県内産の農林水産物を積極的に利用する店舗。平成20年度から募集開始。



(意見交換会の状況)



サンマの水揚げがスタート

9月28日(金)、小名浜港に今年のサンマの初水揚げがありました。漁場は北海道根室沖で、水揚げ量は約74トン、180～210円/kgで取引されました。昨年とは違って復興ムードが高まっていることやカツオ同様に大手販売店の買いが入ったこともあり、単価は納得できるものとなりました。10月15日(月)までに5回の水揚げが行われ、多い時で120トンを超える水揚げとなっています。昨年は、10月15日が初水揚げでしたので、それと比較しても今年は、本格的に復興に向けて動き出しているように感じられます。

また、サンマのシーズンインと同じくして、秋のイベントが各種開催されました。9月8日(土)、9日(日)に開催された「ごちそうふくしま満喫フェア2012」や、10月6日(土)、7日(日)、8日(月)の3連休に開催された「いわき小名浜みなとフェスティバル」においては、小名浜魚市場女性部がそれぞれサンマの蒲焼き丼、ポーポー焼き(ハンバーグのようなもの)を販売したほか、サンマのつみれ汁を無料で振る舞うなど、いずれも好評を得ました(なお、小名浜みなとフェスティバルでの活動は、いわき市の水産物消費拡大事業に協力したものです。)

サンマにはビタミンやDHA、EPAなどが含まれ、健康に良いことが知られています。刺身、塩焼きはもちろん、サンマ鍋、ポーポー焼きなど、お好みの料理法で秋の味覚サンマを味わってください。



(初水揚げの様子)



(水揚げされたサンマ)



(いわき小名浜みなとフェスティバルでの様子)



福島県産米販売 キャンペーンを 実施しました

秋の気配がする10月20日(土)、「がんばろう ふくしま!」運動の一環として、今年度第4回目となる農産物キャンペーンをマルトショッピングセンター高坂店において実施しました。

今回は、みなさまにお米の美味しさを再認識していただき、旬の新米を販売することが目的でした。11時30分から17時30分まで、特設コーナーにおいて、県産米を購入していただいた70名の方に今話題の米こうじやレトルトカレー等ご飯のおともをプレゼントしたほか、現在実施されている平成24年度の福島県産米に係る全量全袋検査について説明し、安全性のPRを行いました。

また、あわせて新米の試食も行い、子どもから大人まで笑顔で食べていただき、多くの人にお米の美味しさを再認識していただくことができました。「新米は甘くて美味しい。」「福島の米を応援している。」「いわきの新米を食べたい。」といった感想や応援の声を直接いただきました。

今年度の農産物キャンペーンは、今回で終了の予定ですが、県では農産物に関する情報を積極的に見える形で情報提供していきますので、みなさんの応援をよろしくお願いします。



(できたての新米の試食をどうぞ!)



(ご飯のおともが好評でした)

一般情報



**遠野町の野鍛冶
長谷川昭三さんが
「森の名手・名人」に選定
されました**

公益社団法人国土緑化推進機構主催による「平成24年度森の名手・名人」に、遠野町の野鍛冶 長谷川昭三氏が選定されました。

「森の名手・名人」とは、平成14年度から国土緑化推進機構が、森に関わる樵、炭焼き、木地師、大工、椎茸生産等の生業において優れた技を極め他の模範となっている達人を「森の名手・名人」として毎年選定しているもので、平成24年度は全国で69名の方が選定されました。福島県では、これまで木工や炭焼きなど22名の方

が選定されており、いわき市では竹細工の石森功夫氏に次ぎ2人目となります。

長谷川氏は、15歳から野鍛冶として家庭の包丁から山仕事の手斧、農具、竹細工等の小刀などの製作・修理を手掛けており、あらゆる注文に難なく応える卓越した技術により県内外から注文を受けています。また、「磐城手業の会」の鍛冶育成講座や「匠の業」体験講座で講師を務めるなど技術の伝承と後継者の育成に努めています。

なお、長谷川氏は、日本全国の高校生が森や海、川の名人を訪ねて知恵や技術等を記録し、発表する「第11回聞き書き甲子園」(平成25年3月開催)に参加予定の茨城県の高校生から「森とともに生きる知恵と技」についての取材を受けることになっています。



(選定された長谷川昭三氏)



(入遠野中学校「匠の業」体験講座)



「地域産業6次化 新商品発表会」が開催 されました

9月26日(水)、いわき市渡辺町にある農事組合法人いわき菌床椎茸組合が地域産業6次化新商品発表会を開催しました。今回発表された商品は、県内事業者との連携で開発した次の3商品です。「いわきゴールド椎茸焼酎」(郡山市の笹の川酒造との連携商品)、「いわきゴールドしいたけうどん」(浅川町の円谷製麺との連携商品)、「焼きしいたけ」(南会津町の(株)会津物産との連携商品)。発表会の終了後試食が行われ、出席者や報道関係者が新商品を味わいました。商品販売は、組合の関連会社であるアグリ物産株式会社が担当します。商品を通じ、全国に福島県やいわき市の復興が発信され、風評被害の払拭につながることを期待されます。お問い合わせ先：アグリ物産株式会社(0246-56-0921)



(新商品発表会の様子)



田んぼの学校「稲刈り」

「田んぼの学校」とは、『「ふくしまの農育」推進事業』の一環として、一年間を通して主に米づくりに関わる仕事を体験する環境教育事業で、本年度は、いわき市立赤井小学校と連携し、主に5年生児童65名を対象に実施しています。

10月10日(水)、今年度5回目の活動として稲刈りを行いました。

はじめに、赤井小学校の新妻先生と地元協力者の根本さんから「くれぐれも怪我に注意して実施するように。」と説明を受け、児童たちは稲刈りを開始しました。

根本さんが事前にコンバインで半分程度刈り取った後の残りの稲を、2~3人で班を組んだ児童たちが、それぞれ鎌を使って手作業で刈り取りました。

刈り取った稲は、すぐにひもで結束した後、田んぼの中に立てた木の柱に棒がけで天日干ししました。児童たちは、2時間程度で全ての作業を終了し、今年の収穫の喜びを感じていた様子でした。

収穫した稲は天日干しした後、11月上旬に脱穀を行う予定となっています。



(稲を刈り取る様子)



(刈り取った稲を結束する様子)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

